

小児がんセンターたより



人間ドック・健診を受けましょう！

小児がん患者さんの親御さんが人間ドック（健診）を受診することはあると思いますが、小児がんが人間ドックで見つかることは通常ありません。こどもを対象とした人間ドックはありませんから当たり前ですよ。

では小児がんを経験した方はどうでしょうか。近年、小児がんを克服された方の体を長期にわたってチェックしていくことが重要視されてきています。

そこで全国に先駆け、横浜市で小児がん経験者が人間ドックを受けられるシステムができました。詳細はこの冊子および横浜市ホームページをご覧ください。

かく言う私も、人間ドックで超早期の胃がんを見つけてもらい、胃カメラによる治療だけで完治しました。あと1年見つかるのが遅かったら胃を切除されていたと思いますし、それでも進行がんで助からなかったかもしれません。さらに今年は胆のうポリープをドックで見つけてもらい、3泊4日の入院・手術で完治しました。ドックの威力を身をもって知りました。巷には健診・ドックは無意味であるというような本も出回っており、これらは本が売れるために刺激的なタイトルがついていますが、中身は特殊な例を誇張しているだけであり、科学的なデータに基づいたものではありません。また、健診は定期的を受けてこそ意味があります。一度問題が見つからなかったために何年も受けないと、その間に病気ができて進行しているかもしれません。

小児がん経験者とその親御さんは、健康に対する意識が高いと思います。どうぞ健診・ドックをご活用ください。

小児がんセンター長 北河徳彦



「よこはま小児がん経験者ドック」がはじまります



本年10月17日に横浜市から「よこはま小児がん経験者ドックを開始します！」というタイトルのプレスリリースがありました。横浜市立みなと赤十字病院で小児がん経験者を対象とした人間ドックが開始されるという内容です。横浜市では他の自治体では例をみない、行政と医療施設が連携して小児がん対策を行う小児がん連携病院制度が10年以上前から設けられ、今回の小児がん経験者に向けた人間ドック事業の開設につながりました。

小児がんは治癒可能な疾患であることはすでに周知のとおりです。がんと診断されても、全体で70%を超える子どもたちが治療を乗り越え、もとの社会生活に戻っていきます。小児がんの治療成績がこのように向上する中、化学療法、放射線治療といったがん治療やもとの疾患による健康への長期的な影響（晩期合併症）が知られるようになりました。せっかく、がんの治療を終えても、副作用や後遺症に対する別の治療を要する方々が、残念ながらいらっしやいます。がん治療の直後には明らかでなくても、10年、20年という長い年月を経て顕在化する後遺症もあります。

このような小児がんとその治療による合併症や後遺症に対しても、健康的な生活を守るためには早期発見と早期治療が大事だと知られるようになりました。小児がん経験者自らが、自身の健康リスクとその対策を知ることが何より重要であり、こども医療センターは小児がん長期フォローアップ外来を設け、小児がん経験者が将来的には自立して自身の健康管理ができるように支援しています。しかし成人になった小児がん経験者が、小児がんという疾患や治療の内容を考慮した生涯にわたる検診を、どのように続けていくことが出来るかは課題で、「よこはま小児がん経験者ドック」が今後の解決策のひとつになることが期待されます。小児がん治療に関する、横浜市ならびに横浜市立みなと赤十字病院健診センターのご理解とご協力にこの場をお借りして感謝申し上げます。

40歳以下の若年成人人口の500~700人に1人がかつて小児がんを患った経験がある、小児がん経験者であると推定されています。誰もが健康的な生活をいつまでも続けられるように、小児がんセンターはこれからも努力してまいります。

神奈川県立こども医療センター小児がんセンター 血液・腫瘍科
後藤 裕明

[よこはま小児がん経験者ドックの詳細はこちら](#)



「小児がんセンターより研修会などのお知らせ」

お申込みはこちらから

●2024年度小児がん相談支援室セミナー

＜小児がんのこどものこころのケア＞

2025年1月25日（土） 14:00~16:00

●小児がん啓発イベント

2025年2月9日（日） 12:00~15:00

新都市プラザ（横浜そごう地下） ※内容企画中！

※詳しくは、各施設に配布の案内もしくは小児がんセンターHPにてご確認ください



9月の夜空をゴールドに！全国的な取り組み



今年も9月の世界小児がん啓発月間に合わせて、こども医療センターのライトアップを計画していたところ、JCCG（日本小児がん研究グループ）よりお声がかかり、当院から全国に向けての中継イベントを開催することとなりました。

今年のテーマは「**あったらいいな、こんなサポート**」ということで、こども医療センターで小児がんのこども達を支えてくれている多職種の方々（保育士、CCS¹⁾、HPS²⁾、ファシリティドッグアニー）をゲストに迎えてトークイベントや、昨年開催できなかったゴスペルの合唱に合わせたカウントダウン点灯式、Swing For Kids の演奏と盛りだくさんの企画、そして全国各地でのライトアップの中継もありました。病院に入院中のこども達やご家族も参加され、天気にも恵まれて楽しいイベントとなりました。ライトアップは1か月続き、院内廊下の掲示もたくさんの方々に目に留めてもらうことができました。これからもこども達の未来が輝き続けるように、9月のライトアップを継続していきたいと思えます。



ゴスペル「VOJA」の歌唱は圧巻！



点灯式カウントダウン、アニーも一緒に



Swing For Kids 今回も盛り上がりました！



トークイベントの様子（左から CCS・保育士・HPS・ファシリティドッグアニーとハンドラー）



院内廊下掲示 各都道府県の啓発情報



- ※
- 1) ホスpitalプレイスペシャリスト
- 2) こども療養支援士

小児がんに関連したご相談は
「小児がん相談支援室」（本館1階7番窓口）
までご連絡ください
時間：平日（月～金）8：30～17：00
相談方法：面談・電話・メール
電話：045-711-2351（代）
✉shounigan.1591@kanagawa-pho.jp



イベントの様子は
こちらから
<https://x.gd/2NnUW>

各部門からのお知らせ

～内分泌代謝科～

こども医療センター内分泌代謝科は、部長、医長、任期付常勤医師の3名に加えて、3/4 非常勤医師2名、週1ないし2日の非常勤医師2名の計7名で外来および入院診療に対応しています。7名の医師のうち、小児科専門医以外の資格を有する医師は、内分泌代謝科専門医4名（うち指導医2名）、臨床遺伝専門医3名（うち指導医1名）となっています。

小児がんの生存率は、治療法の進歩に伴って上昇し、現在の5年生存率は（全体平均で）80%を超えています。その一方で、小児がん経験者（CCS = Childhood Cancer Survivor）の2/3以上に晩期合併症が生じ、CCS 晩期合併症の50-60%が内分泌疾患です。しかも、晩期合併症としての内分泌疾患は、治療後5-10年以上経過してから生じる場合も珍しくありません。CCS患者の成長、成熟、内分泌合併症に対する経過をフォローし、必要な治療介入を行うことが、内分泌代謝科医師の役割です。

小児がんの治療を行うのは、血液・腫瘍科、外科、脳神経外科、整形外科、放射線治療科などの医師ですが、内分泌代謝科の医師は、治療前・治療中に内分泌疾患を合併する患者に対して、ホルモン補充や水・電解質管理などの治療を行い、良い状態で治療を乗り切ることができるよう、お手伝いをしています。また、治療後に内分泌疾患を合併した患者に対して、成長、成熟の経過が改善するよう、サポートしています。さらに、原病が完治・寛解した後も、内分泌代謝科の医師との付き合いが続く場合もあります。

われわれ内分泌代謝科の医師は、小児がん診療に関わるチームの一員として、小児がん患者の治療前・治療中・治療後の内分泌疾患に対する適切なフォローと治療介入を行い、CCS患者のQOL向上に少しでも貢献できるよう、今後とも日々の診療に取り組んで参ります。診療にあたって、不明な点や不安などある場合は、気軽に担当医師まで相談ください。

内分泌代謝科 室谷 浩二



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構

神奈川県立

こども医療センター

Kanagawa Children's Medical Center

【発行元】

神奈川県立こども医療センター小児がんセンター
〒232-8555 神奈川県横浜市南区六ツ川 2-138-4
TEL: 045-711-2351 (代)
Email: shounigan.1591@kanagawa-pho.jp